

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2021年9月
第46号
(年4回発行)

秋号

発行部数3千部



「仏教のはじまり2」お釈迦さまの説いた教え

シリーズ浄土宗／浄土宗のお彼岸

実践教室／お墓参り基本

Q&A「法事の時期を先に延ばしてもいいの？」

お月見チャリティーコンサートのご案内

仏教のはじまり2 「お釈迦さまの説いた教え」

仏教は、お釈迦さまが菩提樹の下で真理を悟り、その内容を人々に説くというかたちで始まったと言われています。お釈迦さまが菩提樹の下で悟った真理は縁起の理論でした。それに対し初めての説法の内容は、四諦・八正道と言われるものです。それは、どんなものだったのでしょうか。



ダメーク大塔(サルナート)



菩提樹学園の子どもたち
(2018年インド)



初転法輪像
(サルナート州立博物館)

お釈迦さまが悟りを開き、初めておこなった説法を初転法輪と言います。初転法輪の地は、ベナレス郊外サルナートの「ミガダーヤ」(鹿野苑)という場所で、かつて苦行を共にした五人の修行者に対して行われました。



問 ご住職は前回とそれよりも前にも、インドを訪れた際に四大仏蹟の一つとされている。初転法輪の地であるサルナートにも足を運ばれたそうですがどのような場所なのですか？

住職

現在のサルナートは遺跡公園として整備されて

いますが、二〇年以上前に訪れた時は、まだ発掘も進んでいなくて全て土の中に埋まった何もない状態だったんですよ。今は、遺跡の入口付近にある州立博物館で、発掘によって出土された多くの貴重な彫刻なども見ることもできますよ。

問 初転法輪とは、初めての説法のことですが何故その言葉なのでしょう？

住職 転法輪の法輪は仏の教えを、「転輪王」の武器である輪法になぞられたもので転は説くという意味です。転輪王というのは古代インドの思想にある理想的な王を指すのだそうです。

◆ ◆ ◆

人間は、様々な苦しみを持って生きています。縁起とは、その苦しみを巡る因果関係のこと。四諦・八正道とは、苦しみに関する四つの心理と苦しみを無くす為の八つの実践方法です。

縁起とは「縁って起こること」で、どのような物ごとも、独立して存在し

ているのではなく、常に他のものと関係しあっているということ、つまり、「原因があつて結果が生じ、原因がなくなれば結果も生じない」という因果関係のことであると考えます。

四諦・八正道の四諦は、**苦諦**、**集諦**、**滅諦**、**道諦**の四つの中で、人生は苦しみの連続であるという**苦諦**、この苦には原因がありそれを明らかにするという**集諦**、苦の原因をつきとめそれを消滅させることで苦そのものを無くすことができるという**滅諦**、苦を無くす方法、修行の実践方法（八正道）としての**道諦**というものです。

八正道は、正見（正しいものの見方）、正思（正しい考え）、正語（正しい言葉）、正業（正しいふるまい）、正命（正しく暮らす）、正精進（正しい努力）、正念（正しい理想）、正定（正しい精神統一）のことです。このような修行を積みことによって私たちは、煩惱をなくし苦から抜け出ることができるといえるのがお釈迦さまの基本的な教えなのです。



対機説法

仏教には、聞き手の素質に合わせて教えを説くことを言う「対機説法」という言葉があります。お釈迦さまは、聞き手の置かれている状況に合わせて教えを説いていきました。そのため、お釈迦さまが説いた教えは八万四千種類にもなると言われています。

浄土宗のお彼岸



彼岸とは

彼岸は、正しくは到彼岸といい、「原点を超える」や「向こう岸に渡る」という意味のサンスクリット語「パーラミタ」（波羅蜜多）からきています。

浄土宗では、私たちのいる生死が繰り返され苦しみの多い、此の迷いの岸（此岸）から、理想の世界である仏の世界、さとの岸（彼岸）の極楽浄土へ到ることをいいます。

秋分と春分は、太陽が真東から昇り真西に沈む昼と夜の時間が等しい昼夜等分の日になり、そのことから仏教の中道の教えにちなんで行われる行事とされています。

また、浄土宗のよりどころとする浄土三部経の『観無量寿経』の日想観に基づき、真西に沈む太陽から、その方角にある阿弥陀さまの西方極楽浄土に思いを馳せる行事とも考えられています。

こうしたことから浄土宗では、自身が極楽浄土に往生することを願い、彼岸には、仏道の修行である六波羅蜜を積極的に実践し、お浄土にいらっしやるご先祖の御霊を供養する期間として、「お彼岸」を意義付けています。

六波羅蜜とは

六波羅蜜は、さとの世界へ到るための六つの修行のことです。布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧です。布施は、見返りを求めず応分の施しをさせていただくこと。お金や物に限らず、知識や教えなどの法施、優しい言葉をかける言辭施や、心のそこから人を思いやる慈悲心を施す心施なども布施なのです。持戒は、自分勝手に生きることなく決まりを守って相手のことを考えて生活すること。忍辱は辛いことや悲しいことがあっても恨みに思わず困難に耐えること。精進はひとときも無駄にすることなく全てのことを最後までやり遂げる、日々誠心誠意尽くすこと。禪定は、ものごとをよく考え、心を落ち着けること。智慧は、心理を見極め真実の認識力を得ること。

私たちは、日ごろ頭では理解していても実践できていないことが多々あります。彼岸会では、六波羅蜜を改めて考え、実践するのによい機会ではないでしょうか。

お墓参りの基本

日本人に根強くあるお墓参りの習慣。日頃、お墓参りから足が遠のいている方も、春秋のお彼岸や、お盆、年末年始などの節目には「お墓参りに行く」と思われるのではないのでしょうか？



お墓参りに行ったら本堂にお参りを

お墓参りの際、菩提寺の近くにお墓があるならば、本堂のご本尊さまにお参りし手を合わせてから墓所に向かいましょう。

はじめに掃除、供物は持ち帰る

まずは墓前で合掌してから枯れ葉など目立つごみを取り除きます。墓石の掃除は、水をかけながら雑巾やスポンジで汚れを落とします。毛足の硬いブラシやタワシなどは、キズの原因になるので注意しましょう。花立ての中もきれいに洗い花とお線香を手向けます。美しく整った墓所は清々しい気持ちでお参りができますね。

故人の好きだったものとして、缶コーヒーや缶ビールなどをお供えしている墓所を見かけることがあります。錆などにより墓石のシミになる場合があります。墓所を美しく保つ為にもお参りが済んだらお供物は必ず持ち帰りましょう。



お墓は感謝をするための場所

お釈迦さまが亡くなられた時、そのご遺骨（仏舍利）は、八つに分骨されお釈迦さまを慕う人々がそれぞれの国に持ち帰り仏舍利塔を建てて大切に保管されました。ここで人々は、お釈迦さまのお徳を偲び、仏法に出遭ったそうです。

私たちがお墓を建てる時も故人への敬いの心から碑を建て、遺骨を大切に保管する場所とします。お墓では私たちが故人とのつながりを確かめ、故人や先祖のおかげで私たちが今日あることを感謝します。



第12回 西願寺

十三夜お月見 チャリティーコンサートのご案内

今回の西願寺 十三夜お月見コンサートは、「あの日を忘れない東日本大震災チャリティーライブ」と題して2012年3月に開催した西願寺の最初のチャリティーコンサートに出演したシンガーソングライター・濱守栄子さん（岩手県大船渡市出身/さんりく・大船渡ふるさと大使）による歌の夕べです。癒しのひと時を一緒に過ごしませんか？



日時 令和3年10月15日（金）18:00受付

場所 西願寺 本堂

参加費 1,000円

※参加希望の方は、西願寺までお気軽にお問合せお申込みください。

Q 父の命日が、ちょうどコロナ禍で緊急事態宣言が出ている時期でした。三回忌の法要を身内だけで行うにしても時期的にためらわれたので、結局法事を行うことができませんでした。ただ、法事をしないというのも何だか気になるのですが、「法事を早く行うのはいいが、遅らせてはいけない」というのを聞き迷っています。半年以上過ぎてしまっただから回忌法要を行ってもいいのでしょうか？

A お父様を偲び法要を…と思われるお気持ちは大変素晴らしいことだと思います。法事は祥月命日に勤めるのが本来の姿でした。しかし、誰もが忙しい現代では、参列の皆さんの都合にあわせて祥月命日に近い日取りに執り行うことが多いのではないのでしょうか？

さて、祥月命日から大きく過ぎてしまっただけからの法事についてですが、結論から申しますと、ご法事をお勤めしていけないなどという事はありません。

法事は、義務ではなく私たちの心の問題です。亡き人を偲びつつ、そのご縁により参集した家族、縁者の一人ひとりが、読経や説法を聴聞して仏さまの教えに触れることのできる機会ですので、ご相談者さまの「法事をお勤めしよう」と思われたその気持ちを大切になさってください。



西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789
彩の都メモリアルパーク TEL. 048-921-4194

掲 示 板

●秋彼岸会●

9月20日（月）～9月26日（日）

◆塔婆お焚き上げについて◆

当園では、塔婆のお申込み又は墓所に立てる際に、塔婆お焚き上げ料として1本につき1,000円を頂いております。

※お客様ご同行の方（当霊園以外で塔婆をお申込みの方）は墓前に塔婆をあげる際に事務所にお申し出ください。

彩の都メモリアルパーク管理事務所

新型コロナウイルス感染拡大 防止対策にご協力ください

行事参列、ご参拝の際はマスクの着用をお願い致します。
また、施設利用の際は、備え付けのアルコール消毒液にて手指の消毒をお願いしております。



暮らしの中の

仏教語 「皮肉」【ひにく】

「あの人ったら、またあんな皮肉を言って…」
と思ったことはありませんか？ 皮肉を聞くのはあまり気分のいいものではありませんよね。遠回しに意地悪く相手を非難することを皮肉といいます。でも何で皮と肉なのでしょう？

皮肉とは、仏教語の「皮肉骨髓」からきています。禅宗の祖師、達磨大師は「我が皮を得たり」「我が肉を得たり」「我が骨を得たり」「我が髓を得たり」と、弟子たちの修行を評価しました。骨や髓は「要点」や「心の底」の喩えて「本質の理解」を意味し、皮や肉は表面にあることから「本質を理解していない」といった非難の言葉でした。そこから、皮肉だけが批評の言葉として残り、欠点などを非難する意味で使われるようになったのだとか…。



■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

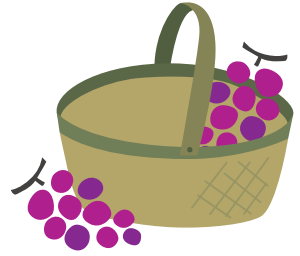
◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区麹町二・一・三・一〇二
FAX 03(62295)1362 Mail: info@io-comet

■次号予告

次号は令和三年十二月発行予定の「新年号」です。





◆編集後記

今回の「さんが」は秋号。秋と言えば、ついで空を見上げてしまいませんか？ 1年の中で最も空が澄みわたる季節で、昼間は秋の雲、夜は月が美しく空を彩ります。月の呼び名は、月齢による、新月や三日月、十五夜、十三夜その他にも、十六夜（いざよい）、立待月など様々。古来より月を愛でる風習があった日本ですが、十五夜のお月見が広まったのは平安時代の貴族社会からと言われています。当時の貴族たちは月を眺めながら、船の上で詩歌や管弦を楽しんだのだとか。

さて、今回の西願寺・十三夜お月見チャリティーコンサートは、今年、東日本大震災から十年の月日が経ったということで、西願寺での最初のチャリティーコンサートの際に出演された濱守栄子さんを招いて開催されます。この十年の間には、日本のあちこちで災害に見舞われたところがありました。私たち一人ひとりが出れることは小さな事かもしれませんが、このチャリティーコンサートを通して、被災地の方々に寄り添う気持ちを再確認したいですね。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部